

令和6年度 青梅市立第一中学校 学校評価シート

| ＜学校経営方針の重点＞ | | | |
|-------------|----------|-----------|-------------------|
| 1 学力の向上 | 2 社会性の育成 | 3 豊かな心の育成 | 4 その他（教育活動を支える重点） |

| 項目 | 経営目標 | 本年度の重点 | 具体的な方策 | 評価 | 分析結果 | 改善策 | 学校関係者 評価記入欄 | | 学校の見解と今後の方向性 |
|--------------|-------------------------------------|--|--|----|--|---|-------------|--|--|
| | | | | | | | 評価 | コメント | |
| 1 学力の向上 | 生涯にわたって、学び続ける力をつけるために | ●研究テーマ「主体的に学習に取り組む態度の確立に向けて」 ●学習の質を高める授業づくり ●主体的・対話的で深い学びの追求 | 単元指導計画の充実（単元指導計画付略案を用いた授業観察） | A | 昨年度の成果を踏まえ、より充実した単元指導計画に沿って指導できた。また、本時の位置付けを一層意識した授業を展開することができた。 | 充実した単元指導計画の作成は、各教科ともに進んでいるが、生徒の理解力など実態に応じて変更していく手立てを準備しておく必要がある。 | A | 授業参観でも、生徒の主体性を大切にした授業づくりがされていた。これからも、生徒の実態に応じたきめ細かい指導により、学びの楽しさを味わわせてほしい。個に応じた指導や振り返りの時間の設定など、授業については、常に改善が求められると考える。ICT機器の有効な活用方法と併せて、引き続き研究に努めてほしい。 また、授業の基盤として、生徒が自分の考えを言え、相手の話を聞く授業づくりを続けていってほしい。 | 令和7・8年度は、青梅市教育研究指定校となる。準備委員会での話し合いを生かし、生徒の主体性を育む手だてについて研究を推進していく。よりよい社会人の育成が教育目標であるため主体性が発揮される場面を、授業以外の時間にも設定して検証していきたい。 |
| | | | 授業の基本的な構成の見直しと開発 | A | 単元単位でプリントを作成したり、振り返りの時間に重点を置くなど、これまでの流れの見直しに取り組むことができたが充分とは言えない。 | 実物の教材や視覚化をより意識して生徒の理解促進を図ることや説明を短くし、活動の時間を増やすように心がける。 | | | |
| | | | 主体的な取組を引き出す課題の設定と発問の工夫 | B | 教師主導から生徒が主役の授業への転換が進んでいるが、プリントの内容が主体的な取組を引き出すものになっていないなどの課題がある。 | 興味をもったことを探究していけるような課題設定を行う。より効果的な方策を校内研修会で模索し、研究授業で検証する。 | | | |
| | | | 三つの内言「他に考え方はないか。分かりやすいか。本当にこれでよいか。」の育成 | B | 他者に伝えたり、発表させたりする場面では、特に有効である。習慣化できている反面、耳慣れてしまい効果が薄くなっていると感じる。 | 思考を見直した結果、より良くなった事例などを紹介して、「三つの内言」に意味があることを再発見させる取組を行う。 | | | |
| | | | I C Tの効果的な活用と視覚化の工夫 | A | I C T委員会が活用方法の共有を推し進めたことにより、どの教科も積極的に活用できている。環境面で使い難さがあるので、解消できると良い。 | 活用が進んだ反面、内容や活動に合わせ、取捨選択ができるよう今後も研修を深めて行く。また、市教委とも情報交換を密にする。 | | | |
| 2 社会性の育成 | 安心して学び、自己有用感を高めるために 「振る舞い輝く！一中生」 | ●励まし合える人間関係の構築 ●マナーをはじめ常識・良識の育成 ●人権尊重教育の推進 | 生徒会活動・学校行事等の充実 | A | スローガンのもと、生徒会活動は、活動内容をはじめ生徒主体での運営ができている。コロナ禍以前の活気を取り戻し、更に活力が増している。 | 生徒主体で運営できているが、より活力を高めるためには、伝統として引き継ぐものと精査していくべきものを検討していく必要がある。 | A | 生徒会活動やボランティア活動等は、生徒のコミュニケーション能力や社会性の育成につながっている。一中の特色であり、生徒が楽しんで参加している様子が見られる。生徒から活動案がたくさん出るといい。 情報モラル教育は、家庭の協力がないと難しいが、学校ができることを推進してほしい。いじめは隠れてされるため生徒の様子の違いを感じ取り、早期発見に努めてほしい。 | ボランティア事務局を立ち上げ、ボランティア活動の中核を担っているが、より一層、ボランティア部や生徒会との連携を図っていく必要がある。 「SNS一中ルール」や「いじめゼロ」も生徒発信となるように見直しを図っていく。 |
| | | | 持続可能なボランティア活動の推進 | A | 参加する生徒が増え、昨年度よりも更に活動が活発になっている。反面、一度も参加しない生徒もあり、裾野を広げる取組が必要である。 | 生徒達で声を掛け合える環境をつくる。生徒の発案によるボランティア活動はより主体性を導き出せる。また、3学期中に通学路清掃ボランティアを行う予定である。 | | | |
| | | | 情報モラルの育成 | B | 継続的に指導している成果として、SNSを介したトラブルは減っているが、楽しさが優先され正しい使用ができない場面がある。 | 家庭との協力、連携が今まで以上に必要である。情報モラル・リテラシー教育を学校として、計画的に実施していく。 | | | |
| | | | いじめ対策委員会を基軸とした「いじめゼロ」の推進 | A | いじめ対策委員会において生徒の情報共有を行い、迅速な対応ができているが、いじめゼロは達成できていない。 | 解決したと思われる案件も長期的視野に立って再発防止に努める。また、フロアの見守りなどチームで行えていることを継続する。 | | | |
| 3 豊かな心の育成 | 広い視野と感性・想像力を高めるために | ●多様性を尊重する心の育成 ●「言葉の力」を中核とした教育活動の推進 | インクルーシブ教育の推進 | A | 女子のズボンが導入されたが、違和感が無くなって来ている。交流給食の復活は機会を増やしている。体育の共同学習の成果も大きい。 | 共同学習については、より充実した活動を模索していく。また、交流委員会の枠を超えた生徒会活動を検討していく。 | A | 行事にもスローガンが生かされ、よき社会人の一歩になっている。スローガンを柱に、様々な手だてを一層推進してほしい。 道徳では、地域とのつながりを取り上げることで学びが深まると考える。 朝読書は興味の幅が広がるのが期待できる。継続実施をお願いしたい。 | 「振る舞い輝く！一中生」のスローガンは、全教育活動を通して生徒への浸透が図られている。生徒へのアンケート内容を工夫し、達成度を見取り、より効果的な取組を探っていく。 |
| | | | 道徳教育の充実 | B | 学年体制でローテーションを取り入れ、活発に意見が出るなど充実した活動が展開できているが、道徳的実践力を上げていく必要がる。 | 学びを実生活に結び付けるための事例やロールプレイングの手法を取りいれ、道徳的判断力を実践に移せる力を培う。 | | | |
| | | | 朝読書の充実 | A | 声掛けを行わなくても自主的に取組み、効果が上がっている。 | 朝読書を行う根拠や目的を改めて確認し、理解を促す取組を行うことでより充実させる。 | | | |
| | | | 「3ない運動」×SDGs（青一 ver.） 生徒会活動の昇華 | A | スローガンが生徒に認知され、各委員会も照らし合わせた活動ができている。「振る舞いを輝かせよう」という呼びかけも聞こえるようになった。 | ボランティアをはじめ、今の活動を充実させながら、生徒会の質をより高めていく。拡大も必要だが、現在行っている活動を定着させていく。 | | | |
| 4 その他 | 教育活動を支えるために | ●一中校区とのつながりの堅持 ●働き方改革の推進 | 持続可能なPTA及び地域との連携 | A | 保護者や地域とのつながりを大切し、連携できている。保護者や地域の御協力に感謝している。 | PTAの方も教員もお互いに持続可能な活動を展開できるよう考える必要もある。 | A | 地域が生徒の成長に与える影響は大きいと感じている。地域に貢献できるよりよい社会人の育成をこれからも共に考えていけるとよい。生徒同士で活動の必要性や楽しさを伝え合うことも有効だと思われる。 働き方改革の中でも、生徒一人一人に寄り添ってもらえるとありがたい。 | ボランティア活動の推進などを軸に、今後もPTAや地域と持続可能な連携を図っていく。教員の働き方改革には課題は残るが、「見える」改革を推進していく。 |
| | | | 教育の質を落とさない働き方改革の推進 | B | 効率化の意識が進んだこと、電話受付時間の変更、部活動の冬季最終下校時刻の繰り上げなど具体的なこともあるが、個人にはばらつきがある。 | 更なる諸活動の精選を検討していく必要がある。また、英語科の業務量を軽減すべきである。更に、個人の意識改革を進める工夫を行う。 | | | |
| | | | 研修（研究と修養）の充実 | A | 校内研究が進んでいるので、来年度からの研究指定校に向けて全教職員が一丸となる必要がある。 | 時代と共に変わる教育を意識しつつ、今後も集団・個人で研鑽を積む時間を確保していく。 | | | |

